

UHC フォーラム 2017

2017 年 12 月 13 日 9:00～10:00 於：東京プリンスホテル

加藤厚労大臣 開会挨拶

1. 冒頭挨拶

- 日本に、そして UHC フォーラム 2017 によろこそ。
- 2015 年の UHC 東京会合から始まり、昨年の G7 伊勢志摩サミットおよび神戸保健大臣会合、TICAD VI などを通じて世界における UHC の達成への取り組みをリードする日本の厚生労働大臣として、皆さんの前で挨拶できることを大変光栄に思います。
- まず、今回のフォーラムには、各国の保健大臣だけでなく、首脳、財務大臣、また多くの国際機関、NGO、プライベートセクターから多様な方々に参加頂いていることを大変嬉しく思います。

2. UHC の重要性

- 人々の健康は平和と人生の礎です。来年は、はじめて Health for All が謳われたアルマ・アタ宣言から 40 年を迎えます。アルマ・アタ宣言以降、各国において地域の資源を活用し、住民の参加を促す公衆衛生の基礎が築かれ、その後ミレニアム開発目標 (MDGs)

の下、三大感染症や乳幼児死亡率、妊産婦死亡率の低下に世界で大きな成果をあげてきました。

- しかし、同時に疾患ごとの対策は、保健医療を提供する基盤である保健システム自体の強化には不十分であることが認識されました。従って、幅広い保健医療サービスが誰の手にも届くように、UHC を中核において SDGs では強固な保健システムの必要性が再認識されました。
- こうした文脈の中で、これまで多くのドナーからの外部資金が開発途上国における健康課題の改善に貢献してきましたが、今後の持続可能な発展のためには、各国が政府がオーナーシップを持ち、国全体の取組をリードし、長期的に財政面でも持続可能な保健システムを構築しなければなりません。また、国民一人一人に着目した場合に、誰もが医療により家計が破綻することがないように医療財政をデザインすること、また、どこに住んでいても必要な保健サービスが受けられるように施設等の整備とともに医師等の人材を養成することが、Health for All を目指す上で極めて重要であることはこれまでの世界の教訓と言えます。
- それゆえ「すべての人々とコミュニティが必要最低限の医療を、

支払い可能な負担で受けられる」状態を指す UHC は、2030 年に向けた最も重要な目標の一つであると考えます。

3. 日本の UHC 達成の過程における多省庁横断型の取り組みの紹介

- 日本は、まだ経済発展を遂げていない 1961 年に UHC を達成しましたが、その UHC 達成に不可欠であった公的医療保険の拡大や医学校の全国的な展開には、多くの専門家の英知の結集に加えて、大きな政治的決断が不可欠でした。
- 日本の公的保険制度は大企業における職域保険として始まり、徐々に中小企業にまでその範囲を広めてきました。この段階では比較的貧しい農家を含む自営業者をどう手当てするかが当時の課題でしたが、まさに今で言う No one left behind の精神で 1961 年に残されたすべての国民をカバーする皆保険制度を導入しました。
- そして、地方における保健サービスの提供と保健医療人材育成の強化を目的に、1973 年には一県一医大構想を打ち出しました。
- これらの大胆な政策は当時の政治的題目として日本で大きな政

治的議論を呼びました。こうした背景の中、いずれも厚生省の判断を超え閣議決定され、国をあげて政府全体で進められてきたものです。これらの政策の実施においては、厚労省だけでなく、財務省や文科省も重要な役割を果たしました。このように政府をあげる形で一定の投資を早期に行い、UHC を達成したことが、その後の経済成長につながったと確信しております。

4. 日本の UHC 維持の努力と経験共有の意義に基づくフォーラムの重要性

- 次に申し上げたいのは、UHC は一旦達成した後も維持することも非常に重要ということです。
- 日本もこれまで人口の高齢化と経済状況に応じて繰り返し制度や法律の改正を行い、UHC を維持してきましたが、こうした UHC の達成や維持のために、多くの国の経験を参考にしてきました。例えば、公的保険制度構築や 2000 年に開始した介護保険制度においてはドイツの制度を参考にし、その経験から学びました。
- 同様にこれまでの日本の経験がいずれかの国のためになるのであれば、成功も失敗も含め出し惜しみなく共有し、UHC 達成に向

けて協力していきたいと思っております。

- このUHCフォーラムが各国の経験やプラクティスの共有を促進するために最適なプラットフォームになることを強く願っております。

5. フォーラムの簡単な紹介と発展への期待

- 最後に、本日と明日にわたって開催されるフォーラムについて簡単に紹介したいと思います。
- 1日目は、世界のトップクラスの専門家と共に、UHCの進捗と現状が報告されます。また分科会において、財政、コミュニティレベルからの取り組み、高齢化への対応等の多様な課題について議論します。さらにUHCを推進するための多様なイニシアティブ連携の可能性を探求します。
- 2日目は、1日目の議論を土台として、各国首脳級や国際機関のトップをお迎えし、より高いレベルでUHCの推進について議論します。また各国の経験やビジョンを共有し、今後どのように、各国及び各国際機関が協調した取り組みを行うか議論をしていきます。

- 2日間を通じて、2030年までにUHCを達成するための重要な議論がされることと共に、このフォーラムが世界の健康に大きく貢献していくことを期待し、私からの挨拶とさせていただきます。(終わり)